

神  
綱  
集

~ 4  
1626





門入 利4  
號 1.626  
并

神視集

社頭梅

風月評



け神乃がやうもみけさかたのさるにせしめ  
まらつじ七野乃春のまをふれ梅のむにこそ  
子りと吹松をたう春のたの此神をさうさう音  
赤内をけく何そと句神垣乃うらも昔れまのさう  
子よまをれまのいさ神をさう此神垣乃松  
まらつと神のいくをさうまのまの梅さけの陰  
長収

松歴年

お言はまか後うれ老松もほさかたの神乃ま  
神垣のせしめらまのも陰をれまにこそ  
僧 延延

社頭梅

萬疎



十早振神入るるふゆうのむいせむよふしむせむぢは 蘆庵

社頭梅

神さしに八重咲もあけ梅のつえ津うほむら流るん 巳 物外  
ふほらまよまいく代こ白く神のふ入むかきうまえ 貞阿  
長岡もも宮めかまを咲梅のふかむえん神うまよま 光教  
まこのよあまらうまううまよまうまよまうまうま 盛子  
らちむの梅の白く庭まははむもさうあけ乃玉さ 女 念ん  
け神のこゆるえお若もしく世かけいづに白くうまう香 廣居  
ふせく多いく春もに咲梅入をよかむを神うまらむ 浪花 為長  
咲梅よも代色むまよまをて白くもまを入神垣 信興  
まーまにいづあまら吹ぬ神入るるるるるる梅く 種信



世おうも口方にうむむ世を廣くまゆあ乃神うまめ梅 福井 吉次  
まかきし神の口垣のまよめ花をあけく咲もうまら 松軒  
世うまよまうまうまうま入るるらむとく神うまの梅 脩  
いもはしかけをううて咲梅のまうまを神のうまらむ 微妙  
代こそま咲もまもまも香ももまに神入をまらふ 金伏 厚曹  
む垣うま梅うまよまも香もむうまかき神うまを 元成  
天つゆ白ももら神うまに咲も梅いこ子代乃春 永惇  
いく年をまらまら神垣よもま海く白くうまら 花山  
梅く乃あまらかきし社中をまらまら入るる内 易直  
神うまよまらまら風うら梅の白くうまらまら 秀順  
うまらし神入るるに咲梅よむのまら白くまら 妻白  
昔よりいよも乃神入るる後まらまら花よらら 改遠



世に代さるる梅乃かけるもいらも厚き春の神々を  
 以忠 申之 相之 從當 直祐 義陳 宣得  
 世に代さるる梅乃かけるもいらも厚き春の神々を  
 以忠 申之 相之 從當 直祐 義陳 宣得

松歴年

成元 寂翁 光教 盛子 忍人 三月 信弘 玉江 安貞 信行 吉次 松軒  
 世に代さるる梅乃かけるもいらも厚き春の神々を  
 以忠 申之 相之 從當 直祐 義陳 宣得







は 春暁

春の暁の長しこきてしらあひ月けりてさきむの 但義

に 巖頭藤

よかむ後入りよまほるまらなりかおきよるこ 暫夢

か 閑鷗

かよふにさる五月のあはぬ閑の本音をゆきとまなく 在延

ひ 五月雨

日守のくらくは五月雨の降し終る行のいと 信子

を 夏草

きくあはむのいそよまは内かましくさる庭の夏草 綱子

こ 鴉川

うらむせとあまうみ入大井川照しく事おかむを教り 真章

せ 近萩

せはとけふ垣のりかして事をけ行したをぬ内乃萩と 満子

よ 行路萩

よまるとむむにころあはる病をよめゆおち萩萩 政孝

う 秋風

うらむにききき内乃春なきをよめおち萩萩 貴達

の 野外鹿

のにみえぬ書なきをよめおち萩萩のあはれ 綱子

の 對月

行ちるこいしそちおち萩萩の月面をけりてさきむの 直貞

と 谷紅葉

とち紅葉萩乃ありよまほるまらなりかおきよるこ 信子



朝霜

名にわたり小野乃宮の朝霜にけりてはむらさきもあはれ  
浦千鳥 政孝

あゝ海浦あまのこを友らとてはむらさきもあはれ  
原雪 永豊

累年にもあはれも暮れむらさきもあはれ  
向火 西庵

下にのまきむらさきもあはれむらさきもあはれ  
恋書 在延

何れもあはれむらさきもあはれむらさきもあはれ  
通書 潤子

志はむらさきもあはれむらさきもあはれ  
女

恋柏

やうやく人の志に柏本はむらさきもあはれ  
祈久 但義

心を折む人の志に柏本はむらさきもあはれ  
恋書 女

はなはた思ひにむらさきもあはれむらさきもあはれ  
古寺 永豊

瑞穂乃水もあはれむらさきもあはれ  
閑居 西庵

をよみ、松乃志にむらさきもあはれ  
父恋 貴達

あはれむらさきもあはれむらさきもあはれ  
女



旅友

道も通るも旅もあはれとてわがまのね 吉雄

海村々

頼多きいそり乃舟も波よけのゆゑかふあまね家々 直貞

神社

名よたふ一松の松も年よりあはれき神乃つま 在延

又よつむか賀め令澤の連中にもと題して

御神祇を同じくさすもさるくよとて

立春

口方よあかきむえよゆとふ乃とけよは代の春あはれむ 政達

雪中鶯

口方よよも梢あきほとけつて夢よともの春あはれむ 如紀

山霞

あけけし春のこころもあはれとてあはれ乃とてあはれ 自道

梅風

まよふ咲梅乃よかもの行りも多神もよとてあはれ乃とてあはれ 成烈

曉歸鴈

ときよとあはれあはれとの横きにもつ別もよとてあはれ乃とてあはれ 茂典

尋花

ふきよとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ 勝具

花雪

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ 賢と

刈草蒲

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ 政秋



の納涼

乃我駒とまゝくくよきまゝに神を涼に杜の下つ勢 秀貞

そ夕堂

神より内をながむとてし響もくちかよき夕園のそ 定切

ら七夕

落涙乃袖よりあましくよきよに早よまらむ 始業

小 河と舞

こちよりの末とつこちよりのあましくくぬれにほく 清昆

そ 月前落

ほりまきこくおまひあつて庭かきよおまひのまにこ月を 徳方

み 野住月

こちんおまひあつておまひの月や小野のあましく 陳斯

も 曉鹿

わふじ乃落よれとて小男鹿のくあはははまきよく 頼之

そ 氷邊菊

せさ入ふたつとらふおまひのまに、重お白菊 懿里

そ 暮秋虫

ていつこ子種をくく行木の野をたけりこよひ乃香 石城

こ 朝雪

いあさんむうとけつと洋をくくおまひのまに本よき香 孝昌

こ 古御雪

本かしくよき吹こて右あつちのまに新志明の 政風

ら 湖邊雪

櫓權とよきかきとてまきくおまひのまに新志明の乃うう舟 直清



初志

ほくそくしんをよめあがけひまをちり入る袖乃さくか  
子亮

不達志

くわくもあつて思ひよめ舞乃きりて衣のほろほろ  
和幸

一駄志

きくもいとおめあつて思ひよめ舞乃きりて衣のほろほろ  
叙庸

の稀回志

乃のなまき稀よとて思ひよめ舞乃きりて衣のほろほろ  
中乃恨と  
用仙

見増志

ありしころ月々の思ひ増乃あつて思ひよめ舞乃きりて衣のほろほろ  
岳美

三行志

論四の思ひよめあつて思ひよめ舞乃きりて衣のほろほろ  
西庵

絶久志

あつて思ひよめあつて思ひよめ舞乃きりて衣のほろほろ  
中乃恨と  
安宅

薄暮松

よよの思ひよめあつて思ひよめ舞乃きりて衣のほろほろ  
保清

の山家橋

よよの思ひよめあつて思ひよめ舞乃きりて衣のほろほろ  
孝親

海眺望

ほくそくしんをよめあがけひまをちり入る袖乃さくか  
頼盤

神祇

よよの思ひよめあつて思ひよめ舞乃きりて衣のほろほろ  
孝翁

初春



こよしの後いらふもこあつむ入春のつとく松をよき梅園  
の霞

乃とつりる春のさくらもはなもかきよ衣まじりかきよ梅  
梅

歩らふと白きさけの梅をゆら久しき春の津さき梅蓮  
春月

人毎よめとよお袖とよふる月三芳  
見花

春いくせゆくお小野乃さくらもいらさくらさき梅蓮  
落花

つら消しおよとけいけい外にさくらさき梅蓮  
藤

笑かふふもかきよ藤うつむ入さくら春と久しき  
郭

かの人乃侍とてさくらさき梅蓮  
五月雨

やゆらし松と京とさくらさき梅蓮  
納涼

柳蔭に花の内もかきよ梅蓮は花とよし袖乃さくら梅蓮  
初秋

初めさくらさき梅蓮乃友よ梅蓮さくらさき梅蓮乃梅蓮乃  
草花

るさくらさき梅蓮乃さくらさき梅蓮乃さくらさき梅蓮乃  
鷹



あふれ月乃るこころしほのねほのまゝ初めり 淡路

きふこの尾との内と梅をて月よけけけけけけけけけ 直

しつとよるまをなまにこけ月よけけけけけけけけけ 女

けけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ 柳

あぬ乃方うむねねねねねねねねねねねねねねねね 女

けけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ 増井

かきかきいきにはけけけけけけけけけけけけけけけけ 良子

あにさか神乃りさくの産産くあけ降くあき入白ゆたふ 女

らけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ 蘭家

あに世の迷をともなるうんあにさかあにさかあにさか 女

いけけけけ人のこころとねねねねねねねねねねねねね 女

あにさかあにさかあにさかあにさかあにさかあにさか 女

あにさかあにさかあにさかあにさかあにさかあにさか 女

あにさかあにさかあにさかあにさかあにさかあにさか 女



さうくよがきまらうとてははしるもいそがしむらあ 女 松嶋

か絶恋

か終多今に宿るんくもいそがしむらあ 女 摘枝

こ恨恋

身をまいたる恨もいそがしむらあ 女 蘭生

ハ曉

長年一丁心もかまふ春よのあしきも横きよ 女 乙女

イ旅

枕の野一乃草花びかして一巻旅のあふり 女 宙緒

ニ山家

西口行くよのあしきもいそがしむらあ 女 梅壺

イ田家

ゆとりと照りいりちと打さる雨のあしき 女 春よ 女 田梅壺

ニ祝

庭の雨のあしき 女 代もいそがしむらあ 女 神 女 羽束

イ早春水

うつらよにえつらうく神垣のいそがしむらあ 女 初 女 正流

ニ子日

みちのくもいそがしむらあ 女 初子日 女 ちよ 女 梅 女 色信

ナ梅壺袖

たひさらにかと思と咲梅のいそがしむらあ 女 袖 女 照明

ニ餘寒月

欄干にのそら月とほいそがしむらあ 女 春のあしき 女 元清







紅葉

のちのちよふの紅はむくぬ松乃のちて 磯山

寒草

まよひさるる書さむく次れよかあうらむ庭乃くまら女 仙子

水鳥

ふたへ乃床もいほこに有磯海むむきて波まのみ鳥れ声 信玄

庭雪深

ふらふら洋にむき松枝の本末をかみぬ庭乃夕くき 輯寧

忍意

そらも伊をて思ふ社もむぬ海は人のやうなる 兼明

夢中意

こころをがこころもさるる松乃乃こ家雨なる傳 香宗

誓意

露命をかけくちりてまよふをかくにねむ未だきつむき 於鬼磨

歎名意

むらち次内ふらふらもまにまにあふよしの身そぬぬ衣子 國香

恨意

はまはくともあつらひに中も思ふもあつらひもあつらひ女 厚情

曉鷄

ふゆふゆまよひまよひのやまに君つあつらひもあつらひもあつらひ 善勝

困中燈

をてわけく昔をさるる友もつらむらあつらひもあつらひもあつらひ 是有

羈旅

もあつらひ小ねあつらひ山をさるる友もあつらひもあつらひもあつらひ 為好











かくり行御り乃末の伊くに原くじつむらひ人乃あき凡僧 證惠  
か 忘本

かきとは思ひひらくもあつをまにぞくや捨本の乃をこすひ 親久  
ら 忘鳥

らく海をいそとくむら中かあふも鳥を書にちうあふ 得有  
こ 忘波

きくこと人志をいりて夏波をこし我袖といはふかぬ家 雅也  
こ 忘鐘

きくきわを乃面うけをほくと思ひそくは入あむの徳 長方  
こ 洞松

谷水乃多もこころいにはは松乃をまると陸志けうむ 益治  
こ 旅宿

し訓く古ゆと書くかめし徳のうに志あふ旅入衣也 雲臺  
こ 故御

みおしを乃むくはまのかりけとまきりくもむらさく 幽蘭  
の 蕭寺

おとろり春うとゆき清のまよきあふい言ま平の古く 僧 自英  
を 神祇

を乃神のまゆふ代にまよのむらもむらむらむら 正奥  
こ 祝言

ことおま入道よさくも末うく松をきりくはらわあ代 知之  
う 早春鶯

おもやく春のまよに咲花の栞をほくうくむらよの夢 良音



朝霞

あけぼよあはれなきをよみしはくはくはく朝霞の時之

は夕梅

あまも又さしつるもむくはくはくはく梅の初る方信

庭春雨

活湯とてさるるふり草乃るもさるる本よき雨共房

は見花

こころなきもさるる春よめくあもさるる野の近良

圃郭

いさかしの梅さるるく東杜さるるさるるよ一弘茂

五月雨久

あまの程のさるるさるるあまのさるるさるる五月雨の篤祐

水鳥堂

さるるさるる同くさるる水鳥堂さるる涼くさるる通

遠夕

あまのさるるさるる晴くさるるさるる夕さるる平章

樹陰納涼

さるるあまのさるるさるる本さるる神乃さるる良直

草花露

あまのさるる野さるるさるるさるるさるるあまのさるる明三

霧中鳥

あまのさるるさるるさるる深く朝霧さるる鳥乃さるる憲

野鹿

あまのさるる岩田のさるるあまのさるるさるるさるる比之



深夜月

きりぎりすの月の朧もるけりかしのまゝ増あしむ僧 獨落

をい姫乃せりもつほそ朧毎にけりまきうくあ乃印まゝ 恭義

はさじ敷き乃志とれ初志くふりけり朧のいけま乃りけり 春記

つらつら月と雪あし敷まてりこちりそむしけり川乃りけり 友施

きりぎりすの月の朧もるけりかしのまゝ増あしむ僧 獨落

をい姫乃せりもつほそ朧毎にけりまきうくあ乃印まゝ 恭義

はさじ敷き乃志とれ初志くふりけり朧のいけま乃りけり 春記

つらつら月と雪あし敷まてりこちりそむしけり川乃りけり 友施

きりぎりすの月の朧もるけりかしのまゝ増あしむ僧 獨落

をい姫乃せりもつほそ朧毎にけりまきうくあ乃印まゝ 恭義

はさじ敷き乃志とれ初志くふりけり朧のいけま乃りけり 春記

つらつら月と雪あし敷まてりこちりそむしけり川乃りけり 友施

きりぎりすの月の朧もるけりかしのまゝ増あしむ僧 獨落



く 晴雲

くまの羽ささおくれんさくもさしむらさき道記

夜夢

枕し多春は小蝶乃きくむらさきを思ひ祢乃芳 知賢

去 鞆中燈

志しゆり火し明ふ旅のちけいしきさ 尚賢

の家嵐

流木のきつては嵐もいづれかまじく 顯条

田家雨

そこのやがも田の賤らうもあつた雨そとに 安友

社頭祝

あまの作のまじり神松の子代のまじり 宗雄

追加 松 歴年

あまの作のまじり神松の子代のまじり 宗雄  
十のりもももにまじりつとまじり松の本 葛原

連歌

浜高し作のまじり 京 昌逸

たらくくは小野をさしうり乃も 浪花 長昌

笑うちれ口方りあまのまじり 吉豊

世ふ自らいうちの香や 神 具阿

くれな井入まこせまじり 神 永惇

香をとりの柄れゆき 勝久

ひしこにも松をまじり 今



八言梅乃い活音く河、分神志存 安居  
 う免ッ音の目もくき加ふ神如庭 喬栄  
 編海よの十加一季の神乃三律 秀連  
 う免笑多玉かさくは官力う那 今  
 子里ま多梅よふおの神 直貞  
 神の志家子世十くりお松志花 今  
 二まうそ子代乃春一き姫小吉 温通  
 神松のいく十系也まおまおいろ 保清  
 うり笑多神、き心一代くお春 今  
 梅、う音のあしけき天津神乃る系 安仍  
 題四季 北野社中  
 梅され多松、梅かかお升垣、那 能悦

若くはささ枝に己えの神乃松 遠秀  
 茂るれし一柏をむけふ免くみ、ち 常紀  
 汲いふつえにに追家朝すみ 能成  
 玉松志示けつみくお黒の月 能桂  
 紅葉るの神乃まよくお向枝 能心  
 殿うとぬ法やまき乃神志まの 能恭  
 此神乃も、うり多う十寸鏡 能樂



俳諧

世の中は神もわさすは松光月浴 園更喜葉  
 伸く言をとなす松入ふらう菊一  
 松くはて空をにぢらぬ祢豆の笠記尾  
 谷くは言をゆけし梅馨る浴 芦涯赤間  
 奥なる松乃ありけりか涼く全 蕪休全  
 詠向乃かしこま松に志けりや耶風穴  
 うさの音つほりけり夢を吹本 硯成績  
 世は白鳥松本ゆりつ筆乃勢小 肆更小  
 うめり音よぬはほく水乃宮わら耶竹坊  
 宮さむつ松にうさぬ笑おふを推石  
 玉よつとま白くくは小聲をさるるも巨山

まよりのよとまききりりまか耶 可夕  
 夢賀こ志松をかゆけりをれ玉言  
 まきつら子まらと壽は朝くわ了茶棧  
 松の音つらるるをゆりまを多安  
 松にいき青牛は角のふらきり馬曹  
 長宗さつこは神つらま松むと本己子  
 言おち代くは松をゆり松忠杖枕邊



花洛、其年久しく行方不明なり  
小部乃即社小手向より行方不明なり  
何れに其年久しく行方不明なり  
其れ其年久しく行方不明なり  
都て其れ其れ其れ其れ其れ其れ  
其れ其れ其れ其れ其れ其れ其れ  
其れ其れ其れ其れ其れ其れ其れ  
其れ其れ其れ其れ其れ其れ其れ  
其れ其れ其れ其れ其れ其れ其れ  
其れ其れ其れ其れ其れ其れ其れ

花洛、其年久しく行方不明なり  
小部乃即社小手向より行方不明なり  
何れに其年久しく行方不明なり  
其れ其年久しく行方不明なり  
都て其れ其れ其れ其れ其れ其れ  
其れ其れ其れ其れ其れ其れ其れ  
其れ其れ其れ其れ其れ其れ其れ  
其れ其れ其れ其れ其れ其れ其れ  
其れ其れ其れ其れ其れ其れ其れ  
其れ其れ其れ其れ其れ其れ其れ



か多々いも書うほらも志か  
いふふの様にしるもや手向は  
たよる人こそ又も思ふ所に  
寛政七より反洛湯よる筆を  
巻乃おくよかきほく

か多々いも書うほらも志か  
いふふの様にしるもや手向は  
たよる人こそ又も思ふ所に  
寛政七より反洛湯よる筆を  
巻乃おくよかきほく

京二條通富小路西江入界  
書肆 野田藤八



